

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2022. 2. 24

No. 664

2022春闘 趣旨説明を行う

本部は、2月24日、趣旨説明を行いました。以下、報告します。

(組合)

2020年1月頃より蔓延し始めた新型コロナウイルス感染症拡大は、2年が経過した現在においても収束見通しが見えず、JR貨物グループ全体に大きな影響を及ぼし、厳しい舵取りを余儀なくされていることは重々承知しているが、このような中においても、貨物列車は日々運行されており、組合員は「感染症に感染してしまう」という恐怖と闘いながら、国からの指定公共機関の責務として、日々、安全安定輸送に努めていることを会社は認識しなければならない。

2021年度3月期見通しでは、単体経常収支5億の黒字計画としており、当初の事業計画からは大幅な下方修正を強いられているが、コロナ禍においても黒字が見込めることは、組合員一人一人の努力の賜物である。人材は会社の財産であり、人材が無ければ会社は成り立たない。良い商品を提供するため設備投資も肝心であるが、「人への投資」も忘れてはならない。コロナという先の見えないこの難局を労使が一体となって打破していかなければ、会社が描くビジョンも構築出来ず、構築するためには「人への投資」が肝心である。

我が組織は会社の経営を常に考えており、新型コロナウイルスに伴う支援策をJR連合と共に取り組んでおり、これまでの経過を踏まえれば私達の要求に応えられる体力は十分にあると認識する。

最後に、会社はコロナが収束した後のことも考えなければならない。今後、日本の経済は必ず復活し、労働人口減少により労働者の奪い合いが起きる。この戦いに敗れ、優秀な人材が集まらなければ、いずれ会社は衰退していく。将来に希望の持てる会社づくりをするのは会社の責務であり、会社の状況が厳しいことは重々承知しているが、物価上昇等で組合員の生活も大変厳しいことを理解していただきたい。

以上、2022春闘要求の趣旨を説明したが、今後、真摯に交渉を重ね、回答予定日には誠意ある回答をお願いしたい。

(会社)

新型コロナウイルス感染症については、年明けから急速に広まったオミクロン株の影響もあり、引き続き現場では、感染対策強化に努めて頂き感謝申し上げます。今後も、指定公共機関としての使命を引き続きお願いするとともに、雪害等で輸送障害が多く発生し、それぞれの立場で対応して頂いていることに改めて感謝申し上げます。会社の状況であるが、計画から大きく乖離しており、年度末まで諦めずに黒字を目指していくが、現実的には非常に厳しい状況と言わざるを得ない。

本日、貴組合の趣旨を承ったが、今後、真摯な交渉を重ねていきたい。

(組合) 会社の状況は理解するが、誠意ある回答を強くお願いしたい。

※次回は、収入動向です。3月上旬を予定しています。

以上